

モザンビーク共和国月報（2018年3月）

主な出来事

【内政】

- 14日、ナンブラ市長補欠選挙の実施
- 23-25日、第2回フレリモ党通常中央委員会の開催

【外政】

- 7日、ラブロフ露外相の来訪
- 17日、ラマポーザ南ア大統領の来訪
- 21日、ニュシ大統領のAU臨時総会出席
- 29-30日、ケニヤッタ・ケニア大統領の来訪

【経済】

- 5日、IMF、理事会でモザンビークに対する4条協議の結果につき最終報告。
- 12日、経済団体連合会、年次総会の開催
- 26日、マプトガス火力複合式発電所、試運転を開始

【内政】

ナンブラ市長補欠選挙

(1) 3月14日に実施されたナンブラ市長補欠選挙の決選投票において、レナモ党候補のパウロ・ヴァアンレ氏が勝利した。公共清廉センター（CIP）の集計によれば、フレリモ党候補のアミッセ・コロロ・アントニオ氏が42%の票を獲得したのに対し、ヴァアンレ氏は58%の票を獲得したとしている。投票を行った有権者の割合は、1回目の投票の25%から32%へと増加した。

(2) 同結果に対し、フレリモ党のサロマオン議員は記者会見において、「補欠選挙決選投票におけるヴァアンレ氏の勝利を祝福すべきである。同結果は有権者の意思を反映するものであり、右結果は尊重されなければならない。」と述べた。

(3) 政治アナリストのフェルナンド・リマ氏は、ヴァアンレ氏の勝利は、経済危機や政治的な欠陥による与党フレリモに対する罰であると述べている。リマ氏は、レナモ党への共感というよりも、非開示債務問題に端を発する経済停滞に対する反フレリモ票によるものであると指摘している。同氏はナンブラ市長補欠選挙におけるレナモ党の勝利は、本年10月に予定されている地方選挙におけるレナモ党の国内北部地域での統治への返り咲きを意味するものであると述べている。

(3/15-16 当国各紙)

与野党間対話（軍隊等との統合プロセス）

3月7日付けカナル・デ・モザンビーク紙は、軍隊等の統合プロセスに関するドウラカマ・レナモ党首へのインタビュー記事を掲載している。

(1) 我々は、レナモの軍隊が国家の軍隊の管理職ポストに配置されるための文書を準備しているところである。我々が望んでいることはシンプルで、司令官が政府（フレリモ党）からの者であれば、副司令官をレナモ党員が務め、レナモ党員が司令官の場合には政府の者が副司令官に就くことで、軍隊の全ての管理職ポストのバランスをとることである。

(2) 本件は国会に提出された地方分権に係る事項ではないが、我々としては本件が迅速に進展することを望んでいる。これはローマ和平協定の未解決事項であり、新たな事項ではない。本件は原則的には合意に達しており、遅れがなければ、政府は今月中にもレナモ軍の統合を開始することになろう。そして間もなく、管理職ポストに就くレナモ軍の将校の人選が始められるであろう。また軍事基地のある地域も選定していく必要がある。管理職ポストの半分の確保が完了した後、右が行われることになろう。

(3) 警察についても同様で、何人かのレナモ軍の隊員が治安部隊や国境警察等の警察に加わることになり、右については既に合意済みである。3月から6月にかけて、本件についても完了することが出来よう。

(3/7 カナル・デ・モザンビーク紙)

著名政治アナリストの誘拐及び暴行

(1) 3月27日、ジャーナリストで政治コメンテーターでもあるサレマ氏が何者かによって誘拐され、暴行を受けた。同氏は約1時間後にマプト市郊外で発見されたが、激しい暴行を受けて血まみれで気を失っており、病院に運ばれた。命に別状はない模様。

(2) サレマ氏は、テレビでのコメントや憲法改正プロセスにおけるレナモ党への法的アドバイス等により、ここ数日間身体的な脅迫を受けていたとされている。

(3) 2015年3月に憲法学者のシスタク氏がマプト市内のカフェで銃殺されて以降、政治的動機によると思われるジャーナリストや政治家に対する事件は12度目となる。2016年5月には、大学教授かつ政治コメンテーターとして「Ponto de Vista」に出演していたジョゼ・ジャイメ・マクアネ氏が何者かによって誘拐され、サレマ氏が発見された現場の近くで暴行を受けているが、警察はこれらの事件を解決出来ていない。

(3/28 当国各紙)

第2回フレリモ党通常中央委員会の開催

(1) 3月23日から25日にかけてマトラ市で第2回フレリモ党通常中央委員会が開催された。23日の開会挨拶においてニュシ大統領は、「フレリモ党を近代的な政党として洗練させ、絶対主義的でない党であることを示す時が来た。フレリモ党は常に変化を恐れておらず、絶対主義はフレリモ党の性質ではない。今後、より活性化し、成果を重視する政党となっていく。」と述べ、フレリモ党がモザンビーク社会の変革プロセスを導いていくための政策を形成する政党であり続けていくよう求めた。

(2) 実効的な平和の模索は、今次委員会で議論されたテーマの一つであり、モザンビー

ク共和国憲法の改正プロセスが早急に完了させる意思があることを再確認した。憲法改正案は現在国会の関係委員会による精査を待っており、その後同改正案は国会本会議に提出される予定。和平プロセスに関しニュシ大統領は、「レナモ党がコンセンサスに反し新たな要求をしようとしており、国民はレナモ党が本プロセスを遅らせることのないよう望んでいる。」と述べた。

(3) 今次委員会開催中の25日未明にマプト市内で発生した交通事故の犠牲者23名及びその遺族に対し、ニュシ大統領は哀悼の意を表明したほか、1分間の黙祷を捧げた。ニュシ大統領は、同交通事故は避けられたものであり、制限速度を超えた無謀な運転を強く非難する旨述べた。

(4) 委員会後の夕食会において、モザンビークで初めて開催された第2回フレリモ党大会(第1回フレリモ党大会はダルエルサラームで開催)の50周年を祝福した。ニュシ大統領は、第2回フレリモ党大会は、党内部の立場の違いを克服し、党のイデオロギーを定めた重要な大会であり、自由闘争における我々の闘いの目的とモザンビーク国民の敵に関する共通のビジョンを創り出したと述べた。今後、第2回フレリモ党大会が開催された7月25日に向けて、様々なイベントが開催されていく予定。

(5) また今次委員会にて、中央委員会事務局員が以下のとおり選出された。

(ア) 中央委員会事務局メンバー

アルシンド・ノゲーニャ氏

レオノール・ネーヴェス・モンドラーネ氏

(イ) 中央委員会の検証委員会メンバー

マテウス・キダ氏

エマ・カシモ氏

(3/23-26 当国各紙)

【外政】

ラブロフ露外務大臣の来訪

(1) 3月7日、ラブロフ・ロシア外相は複数の南部アフリカ諸国訪問の一環としてモザンビークを訪問した。モザンビークにおいてラブロフ外相はニュシ大統領、パシェコ外務協力大臣と会談を行った。モザンビーク外務協力省のプレスリリースによれば、両国指導者は会見を行い、両国の協力関係を見直し、両国の政治経済状況、及び、国際情勢において両国にとって関心のある事項について意見交換を行っている。

(2) ロシアとモザンビークの外交関係は1975年6月25日に樹立された。

その2年後にソビエト連邦とモザンビーク人民共和国との間で友好協力条約が締結され両国関係の基礎的文書となった。在マプトのロシア大使館筋によれば、ロシア・モザンビーク関係は長年にわたり友好と相互尊重の原則に基づいて構築され、ウクライナ危機に直面して示されたモザンビーク政府の立場の通り、政治的状況に左右されないものである。

(3/7-9 当国各紙)

ラマポーザ南ア大統領訪問

(1) 3月17日、ラマポーザ大統領が「モ」を訪問し、ニュシ大統領と経済協力等について会談を行った。首脳会談後の記者会見においてニュシ大統領は、南ア及び「モ」の経済は補完的であり、経済協力に関するMOUが直に承認される旨述べると共に、南アが南部「モ」鉄道システムの利用を増やすことに関心がある旨表明した。また、昼食会においてニュシ大統領は、両国経済の競争力を促進すべく比較優位性を最大化させることを政府の優先事項としており、両国の利益に適うよう既存の協力ツールを迅速に実行していく必要がある旨述べた。これに対しラマポーザ大統領は、両国の歴史的な政治・経済・文化的関係を強調すると共に、両国国民は国境で区切られているものの、皆一体である旨述べた。また、SADCが平和と繁栄の地域であり続けることを臨んでいる旨述べた。

(2) また、右訪問に同行したシスル南ア国際関係・協力大臣は、本年4月より、最も混雑しているレボンボとレサノ・ガルシア間の国境が24時間利用可能になる旨表明した。

(3/18 当国各紙)

タバレス・カーボベルデ外務大臣の訪問

(1) 3月19日、ニュシ大統領はタバレス・カーボベルデ外務大臣の表敬を受けた。同表敬後、タバレス外務大臣は記者団に対し、本年7月にカーボベルデで開催予定のポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)首脳会合に参加するようニュシ大統領を招待した旨述べた。

(2) 現在、東ティモールがCPLPの議長国であるが、次期会合ではカーボベルデが議長国を務める予定。タバレス外務大臣は、カーボベルデが議長国を務める間、メンバー国間での文化協力、ヒトの移動、経済協力を促進していきたい旨述べた。カーボベルデは、CPLPにおける政治協力を促進し、2年毎に首脳会合を実施することを画策している。

(3) タバレス外務大臣は二国間協力に関し、ニュシ大統領と観光、産業、Eガバナンスについて議論を行い、「モザンビークとの二国間協力はそれほど大きなものではないが、ICT分野で活動しており、企業分野での活動を更に促進していきたい。また、2019年までにニュシ大統領がカーボベルデを公式訪問するようご招待した。」と述べた。

(4) また、タバレス外務大臣はパシェコ外務協力大臣とも会談し、パシェコ大臣が企業家グループと共にカーボベルデを訪問するよう招待した。

(3/20 当国各紙)

ニュシ大統領のAU臨時総会出席

(1) ニュシ大統領はAU臨時総会に出席し、3月21日、アフリカ55ヶ国の代表は、ルワンダのキガリにおいて、アフリカ大陸間自由貿易圏を打ち出した。ニュシ大統領を含む、少なくとも26の代表が同自由貿易圏の設立協定署名に立ち会い、カガメ・ルワンダ

大統領は、同自由貿易圏はアフリカの統合に向けた大きな前進となる歴史的な協定であると述べた。

(2) アフリカ大陸間自由貿易圏は、アフリカ大陸を世界最大レベルの経済にすることを目指し、他の経済圏と同じレベルで相互に関わる能力を強化するものである。右は、アジェンダ2063の象徴的なプロジェクトであり、アフリカ人の運命を変え、アフリカ国家間の商業的結びつきを促進するものである。

(3) 国連の予測によれば、アフリカ大陸間自由貿易圏は非関税障壁等をなくし、大陸内の貿易を53%拡大させるポテンシャルがあるとしており、今後10年間で少なくとも25~30%の域内貿易の拡大を目指している。カガメ大統領は、アフリカ大陸の将来はアフリカ人の手中にあり、アフリカ大陸間自由貿易圏の発足により正しい方向への一歩である旨述べた。

(4) ニュシ大統領は他国代表と共にカガメ大統領主催夕食会に出席した。今次訪問には、パシェコ外務協力大臣及びソウザ商工大臣等が同行している。

(5) 21日に発表された大統領府声明は以下のとおり。

21日、ニュシ大統領はルワンダ・キガリにおいて、アフリカ大陸間自由貿易圏の設立協定に署名し、同自由貿易圏への「モ」の参加を公式化した。またニュシ大統領は自由移動議定書及びキガリ宣言にも署名した。55ヶ国のうち40ヶ国以上がこれらの文書に署名したことは、AUのアジェンダ2063において決定的な歩みとなるものである。

パシェコ外務協力大臣は、「自由貿易圏協定への署名は、商品流通の制限なく、大陸内で「モ」の商品を流通することが出来るようになる。」と述べ、アフリカの新たな経済的自由を示すものであると主張した。

カガメ・ルワンダ大統領は、自由貿易圏の設立はアフリカ人の繁栄、能力及び雇用の拡大を意味する旨述べた。ムーサ・ファキAUC委員長は、自由貿易圏への署名は、アフリカ大陸の統合という新たなステージをもたらすものであり、パン・アフリカニズムに向けた重要な歩みである旨述べた。

(3/22 当国各紙)

ケニヤッタ・ケニア大統領の訪問

(1) 3月29日及び30日、ケニヤッタ大統領がケニアの大統領として初めてモザンビークを公式訪問した。同訪問には約25名の企業家が同行しており、両国企業間の会合が今次訪問の主な目的の一つであった。

(2) マプトで開催されたビジネス・フォーラムにおいてケニヤッタ大統領は、両国間でのエントリー・ビザの廃止を発表し、両国間での直行便を増やしていくことで合意した旨述べた。また、電力へのアクセス拡大のため、ケニアがモザンビークから天然ガス及び石炭の購入に関心を有している旨述べた。

(3) パシェコ外務協力大臣及びジュマ・ケニア外務国際貿易長官貿易は、貿易及び投資

分野での協力活性化、及び政治・外交分野における2つのMOUに署名した。パシエコ大臣は、「我々は防衛分野の幹部育成や市民の身分証に係るケニアの経験から恩恵を受けたい。また、受刑者の社会経済的リハビリといった刑務所関連サービスについても学びたい。」と述べ、両国政府はインフラ、エネルギー、農業及び観光等の共通の関心分野における協力強化に関心がある旨述べた。これに対しジュマ外務国際貿易長官は、「交通分野で、ベイヤ港とモンバサ港を繋げたい。採掘分野の改善や天然ガス等の資源探索等におけるモザンビークの経験から学びたい。」と述べ、ケニヤッタ大統領は両国間の共同協力委員会を再活性化させるために訪問し、貿易を拡大し、アフリカ大陸間自由貿易圏を促進していきたい旨述べた。また、ケニアはソマリアのテロリスト「アル・シャバブ」の脅威にさらされており、ケニアは反テロの経験を他国と共有する用意がある旨述べた。

(4) 30日、ケニヤッタ大統領は国会を訪問し、マカモ国会議長と会談した。ケニヤッタ大統領は、両国は政府レベルでは協力しているが、国会間の協力を拡大させる余地がある旨述べた。これに対しマカモ議長は、国会間での協力は、社会、経済及び政治関係を深化させるものであり、国会の役目は両国間の努力を後押しすることであると述べた。

(3/29-31 当国各紙)

【経済】

【経済】

主要経済指標

- ・名目 GDP : 110.2 億米ドル (2016 年世銀)
- ・GDP (1人あたり) : 382.1 米ドル (2016 年世銀)
- ・GDP 成長率 : 3.3% (2016 年, IMF 推定)
- ・輸出 (通関ベース) : 47.19 億米ドル (2017 年中銀)
主な輸出品は、石炭, アルミニウム, 天然ガス, たばこ, 重砂, たばこ, ルビー。
- ・輸入 (通関ベース) : 51.83 億米ドル (2017 年中銀)
主な輸入品は、機械類, ディーゼル, ポーキサイト, 建築資材, 電力, 医薬品。
- ・インフレ率 : 5.65% (2017 年通年, 国家統計院)

経済関連政策など

モザンビークの対外債務額の GDP 比はアフリカ随一

格付会社 Standard & Poor's (S&P) は、サブサハラアフリカ諸国の債務に関する同社の報告書において、「モザンビークは対外債務の GDP 比が最も高く、また債務全体の 84% がユーロ債である。近年は公的企業による債務不履行もあり、本年中の国際金融市場への復帰は不可能だろう。国際市場への復帰のためには、IMF の支援プログラム再開に向けた協議開始が必要となる」と述べた。

(3/1 オ・パイス)

モザンビーク銀行（中銀）、企業開設手続の簡素化を要求

5日、中銀のザンダメラ総裁は、官僚主義を撤廃して、投資の誘致に関する行政手続を簡素化することによりビジネス環境を整備し、経済を立て直して多様化させる必要を訴えた。同総裁は「モザンビークでは企業を開設するのは非常に難しく、手続のために多くの時間と費用を要する。当国でも他国に倣って、法律や州法を改定して行政手続を簡素化かつ時間の短縮を行い、企業活動の活性化を図るべきだ」と語った。

(3/6 オ・パイス)

2月の月間インフレ率は0.36%

国家統計院の発表によるとモザンビークにおける2月のインフレ率は0.36%であった。また1~2月のインフレ率は0.76%で、昨年同期の2.93%と比較すると安定している。この物価上昇に最も大きな影響を与えたのは、ノンアルコール飲料で0.2%の上昇であった。物価が上昇している主な品物は木炭(4.9%)、トマト(3.8%)、中古小型自動車(1.5%)、タマネギ(5.2%)、生エビ(13.7%)、レタス(8.3%)等。

(3/12 ノティシアス)

非開示債務問題関連

4条協議に関するIMFプレスリリース

(1) 3月5日のIMF理事会においてモザンビークに対する4条協議の結果について最終報告が行われた。

(2) 近年のモザンビーク経済は資源価格の下落、天候不良及び非開示債務問題によるドナー支援の停止等により大きな悪影響を受けた。このため2016年の経済成長率は3.8%に下落。2017年の経済成長率は農業、鉱業セクターの回復が見られたものの3.7%に留まった。インフレ率の上昇は金融の引き締め政策により抑制されたが、財政赤字はGDP比にして8.2%と、昨年より増加を見せており、高額な公務員給与や高い債務支払いコストを含む財政支出圧力が影響している。債務支払いは困難であり、公的セクターの債務は2016年末の時点でGDP比128.3%に達している。

(3) IMF理事会は、基礎的財政収支の赤字を削減することを目的とした確固たる財政政策が財政の持続性を維持する上で不可欠であることに留意する。また、同理事会は、社会的保障とインフラ整備への支出を確保しつつ、VATその他の税金の免除の廃止を通じて課税ベースを拡大し、経常支出を削減する必要性を催促した。

(4) IMF理事会は、モザンビーク政府が民間債権者と協議を再開する計画である旨の発表を歓迎すると共に、債務再編の議論を進展させることが債務の持続性を確保する上で重要なステップとなり得ることを強調した。また、同理事会は、モザンビーク政府による透明性や責任能力の確保に向けた行動計画を歓迎する。

IMF スタッフレポート

(1) いくつかのリスクは上昇し経済の見通しは引き続き厳しい。現行の政策を継続すれば民間セクターの抱える困難は増大し、公的債務も増加を辿り、貧困率の高さは改善されない。

(2) マクロ経済の安定化が最大課題。財政政策に関しては、債務の持続性の回復、財政能力に見合った水準までの赤字の削減、かつ、公的債務を抑制し、公共財政を強固なものとする努力が必要。

(3) 債務持続性を回復することで対外債務リスクの格付けを中期的に“中程度(Moderate)”レベルへと引き下げ得る。財政状況に注意を払いながら信用収縮の悪化を避けるために金融政策は緩和され得る。

(3/7 IMF スタッフレポート)

IMF 債務持続性分析 (DSA)

(1) 債務状況は“債務支払困難(In Debt Distress)”であり、公的債務は持続不可能なレベルである。前回(注：前回は 2015 年に行われ、評価は Moderate であった)に比べ債務持続性評価が急激に悪化した要因は、資源価格の下落に対応する財政政策導入の遅延、国有企業に対する限定的な管理、非開示債務問題、為替レート下落(為替レートは 2017 年には上昇を見せたが 2014 年に比べ依然 48%の下落)が挙げられる。

(2) その他、前回より評価が下がった要因として、2016 年の Ematum 債の政府保証債への転換による 2023 年以降の債務支払いの急激な増加、中長期的成長率が予想を下回ったこと、天然ガスプロジェクトに対する投資及び生産開始の遅延に伴う収益回収の遅延(エリア 4 は 2023 年、エリア 1 は 2024 年)が挙げられる。

(3) 長期的に債務持続性を確保するには LNG の生産及び収益の確保が重要。しかしながら、現在の公的債務状況は LNG プロジェクトの実施に悪影響をあたえることも考えられる。引き続きマクロ経済の安定化及び債権者との協議を通じた債務見通しの改善は LNG プロジェクトの発展及び将来の成長に向けて役立つ。

(4) 今後の新規債務に関しては慎重を期す必要がある。対外債務に関してはノン・コンセSSIONナルローンは避ける必要があり、天然ガス生産による収益を当て込んだ新規融資契約に関しても厳格な制限が行われるべき。開発効果の高い緊急的なプロジェクトに対して資金を割り振る必要があり、プロジェクト選択を慎重に行うと共に、公的投資の効率性改善に取り組む必要がある。

(5) 融資が既に承認及び確定されたプロジェクトに関しても、より優先順位の高い案件と照らし合わせ、延期若しくは中止も考慮する必要がある。

(3/7 IMF)

エネルギー関連

アナダルコ社、本年中に多数の売買契約成立を期待

1日、米アナダルコ社は、1288万トンの年間生産能力を有するロブマ・ガス田（Area1）で生産される予定の液化天然ガス（LNG）につき、「我々は、仏EDF（120万トン、15年間）、タイPTT、東北電力など、年産510万トン分の売買契約を既に成立させている。そして現在、ガス田事業の最終投資決定のために必要な合計850万トンの契約成立を達成させるために、日中印等多くの購買者との交渉に臨んでいる」と述べた。

（3/2 オ・パイス）

シェル社、天然ガスの不足を予測

シェル社は数日前に発表した報告書で、液化天然ガスの国際市場は、急速に新たな投資事業がなければ2020年代半ば迄は供給不足となるだろうとの見通しを述べた。同報告書によると、2017年のガスの国際市場では需要は2900万トン増加し、2億9300万トンに達した由。現在のLNGの最大購買者は日本だが、排気問題対策として石炭から燃料源をガスにシフトしている中国が、韓国を抜き第2位となっている。また近年の市場では、生産者は従来通りに長期かつ多量の売買契約を求めているのに対し、購買者は短期かつより少量の売買契約を追及する傾向にある。

（3/6 ノティシアス）

露企業によるガス事業への参入

7日、ラブロフ露外相はマプトでニュシ大統領を表敬し、パシェコ外務協力大臣と会談した後に、石油ガスセクターの世界最大級企業の一つである同国のロスネフチ社が近い将来、モザンビーク中北部オフショアでのガス資源の探索事業開始を希望している旨述べた。

ロスネフチ社は、2015年に国営石油院（INP）が実施した第5回国際競争入札で、モザンビーク中部のザンベジ・デルタ地域の2鉱区及び北部ナンブラ州アングシエ港近くの1鉱区につき落札した。米エクソンモービル及びモザンビーク国立炭化水素公社（ENH）との共同出資者であり、3鉱区においてエクソンモービル60%、ロスネフチ及びENHが各20%の出資率となっている。

ラブロフ外相の今回の訪問はアフリカ諸国歴訪の一環であり、今後、アンゴラ、ナミビア、ジンバブエ及びエチオピアを訪れる。

（3/8 E-NEWS）

ガソリン価格、1年間で15メティカルの上昇

2017年2月に1リットル当たり50.02メティカル（約0.83米ドル）だったガソリンは、今月より同65.01メティカル（約1.08米ドル）まで値上がりしている。以前、モザンビークは南部アフリカ域内で最もガソリン価格が安かったが、昨年3月、鉱物エネルギー省は

ガソリン代への補助金拠出を自国ではなく他国を利用するものとの理由で停止を発表し、法改正により政府は監視を強めて価格の安定を図ることとしたが、その後も値上がりは続いた。軽油（ディーゼル）価格も昨年 2 月の 1 リットル当たり 45.83 メティカルから、現在は 61.16 メティカルまで上昇している。

(3/23 オ・パイス)

マプトガス火力複合式発電所、試運転を開始

(2) 26 日朝、マプトガス火力複合式発電所の最初のガスタービンが点火された。イニャンバネ州テマネから産出される天然ガスを燃料として利用する同発電所は 8 月までには 106MW の最大出力で稼働する見通し。ナレンドラ電力公社 (EDM) 発電局長は「試運転には何段階もあり、試運転を開始したタービンから今週中に 2~3MW の送電を開始する。第 2 のタービンには約 1 か月以内に点火され、5~6 月には 106MW を発電するであろう。」と述べた。このプロジェクトは日本政府より JICA を通じ 1.67 億米ドルの財政支援を受けており、返済期間 40 年、うち 10 年の据え置き期間が設定され、金利は 0.01% である。一方、EDM は 1300 万ドルの自己資金を投じている。

(2) またナレンドラ局長は、「同発電所により、モザンビーク南部への供給電力が 25% 増加することになり、電力の質の向上、安定的な供給が可能となる。この 2~3 年は電力の制約が厳しい中ででの生活が強いられてきたが、マプト市、マトラ市の停電のリスクが低下するだろう」としている。同発電所の運転に際し、40 名のモザンビーク人技師が新規に雇用され、半数は女性である。15 名のモザンビーク人技師が現在日本で研修を受けており、67 名のモザンビーク人により発電所の運転が実施される。

(3) 同発電所は南部アフリカで唯一の複合式発電所である。複合式発電所は従来型に比べ、発電効率が高く、温室効果ガスの排出による環境負荷は低く抑えられる。

(3/27 国内各紙)

輸送インフラ関連

マプト都市圏環状道建設の予算不足

マプトと試験の環状道建設は、国道 4 号線に接続する部分の建設における 500 世帯の住民移転が予算不足により停滞しているため、先行きが見えない状況となっている。他方で、最終建築フェーズに入っているマプターカテンベ橋梁は、4 月末に完工の予定。

(3/14 オ・パイス)

その他

モザンビークの経済構造

(1) 2 日、モザンビーク銀行 (中銀) のザンダメラ総裁は、「モザンビークの経済構造は近年大きく変わらず、主に自給自足型で GDP の 25% 近くを占める農業に依存し続けている。

例外は、成長している採掘産業及び金融サービス業である。天然資源は豊富で一定の成長を遂げているが、貧困でもある。これがモザンビークの直面する現実である。2014年の調査では、国民の46.1%に当たる1180万人が貧困な生活を強いられ、国民1人当たりGDPも2017年では430ドルと、この数年変わらず低水準に留まっている」と述べた。

(2) モザンビークはインフラ整備の指標において、アフリカ54ヶ国のうち45位となっている。また腐敗任地指数は176国・地域のうち142位である。また、2016年の人間開発指数は188ヶ国中181位であり、ポルトガル語圏(CPLP)諸国や、南部アフリカ開発共同体(SADC)諸国の中では最低位となっている。

(3/6 ノティシアス)

ニュシ大統領、自給率を高める農業生産の拡大を称揚

ニュシ大統領はソファアラ州ドンド郡で開催された同州農業見本市の開会式に出席し、農業の発展は国家にとり最重要事項だと述べた。開会式には、同州全郡からの200人以上の出展者及び3,000人以上の来訪者が参加した。この見本市には投資輸出促進庁(APIEX)及び労働省傘下のアルベルト・カッシモ職業訓練・労働研究院(IFPELAC)も参加し、組織の活動紹介を行っている。

(3/13 ノティシアス)

農業生産：ロスの少ないメカニズムの構築が重要

13日、農作物ロスを防ぎ経済の損失を最小限に留め、190億メティカル(約3.2億ドル)の経費節減を図るためのアクションプランを、閣議で承認した。現在モザンビークでは、3,000haのトウモロコシ畑を含む41,000haの畑地が病虫害による損害を蒙っており、このアクションプランでは、国外からの疫害流入を予防する監視活動や農薬の配布などを行う。

(3/14 ノティシアス)

アフリカ開発銀行レポート

(1) アフリカ開発銀行(AfDB)の南部アフリカの経済見通しに係るレポートによれば、モザンビークの北部天然ガス生産が2028年にピークに達すると、経済成長率は年24%となり、GDPの半分は天然ガスが占め、モザンビークはアフリカ最大級の経済国の1つになることができる。急速に発展する天然ガス生産と予算運営の改善は人間開発の成果における便益を最大限にする。

(2) 同レポートでAfDBの専門家は、ガスの一部を国内の需要、特に、ガス発電、ガス加工、ガス産業に割り当てるべきである旨、また、モザンビークは包摂的な開発に向けて便益を活用するために、インフラへの投資を促進するべく、天然ガスセクターの管理を改善し、政策的枠組みを導入し、さらに、財政的インセンティブを付与すべきであることを強調している。

(3) また AfDB は、モザンビーク政府は、特定の国内ガス利用政策、ガス資源の地域間取引促進目標政策及びガス収支管理政策を策定し、ガスを各産業に供給できる工業地帯を開発するべきである旨勧告している。

(3/14 Club of Mozambique)

木材密輸の摘発

直近 2 ヶ月間でベイラ市において、9500 万メティカル（約 158 万ドル）に相当するコンテナ 91 台分の密輸木材が押収された。モザンビーク全体でも同期間内に 132 件の摘発があり、12 人の逮捕者が出ている。モザンビーク政府は、木材密輸により年間 200 万ドル前後の損失を蒙っていると試算している。

(3/15 オ・パイス)

経団連年次総会の開催

(1) 今週開催された経済団体連合会 (CTA) の年次総会における最大の課題は、農業分野における投資へのインセンティブ付与で、民間セクターは 2015 年まで実施されていた農業分野への投資企業に対する法人税の優遇措置（通常税率 32%から 10%に低減）の復活を要求した。更に民間セクターは政府への物品及びサービスの調達に関する支払の滞納に言及、企業が取り巻かれている状況は 2017 年に大きく悪化したとし、付加価値税 (VAT) を遅滞なく還付するための計画策定など、政府からの適切な措置がなされることを求めた。

(3) またヴマ CTA 会長は、「政府が国営企業の再建のために法改正などを進めている現状を評価しているものの、この再建プロセスに関して民間セクターにも情報共有を進め、透明性を確保する必要がある。そして、モザンビークにおけるビジネス環境改善のためには、電気や建設等の事業や国際貿易に関する許認可プロセスの簡素化をはじめ、改革を要する。但しこれらの改革は中央政府が責任感を持って、腐敗を減らす方向で進めねばならない」と述べた。

(3/16 オ・パイス)

経済成長は 2023 年以降に加速

(1) 20 日、マレイアーネ経済財務大臣は、「2016~2022 年の平均 GDP 成長率が 3.4%であるモザンビーク経済は、2022 年に Area4 のコーラル鉱区で液化天然ガス (LNG) 生産を開始し、LNG 輸出が始まる 2023 年より成長率が 8~10%となる見込みである」と述べた。これは、同大臣が、英国の投資家と債務再編につき協議した際に、マクロ経済概況の情報として発表したもの。

(2) 同大臣は更に、「2022 年迄は IMF の予測通りに経済成長は低く留まるが、2023 年には GDP 成長率は 9.9%となり、2027 年迄は 7%以上の高い水準を維持するだろう。モザンビーク経済は、国外からの財政支援や IMF からの支援プログラムが削減されても、一部免税

特権の撤廃、新たな消費税の導入、公務員雇用の合理化、燃料や通信に関する補助金の削減等の施策によって自らの財政を強化していく」と述べた。

(3/22 ノティシアス)

LAM と Fastjet、コードシェアにつき合意

モザンビーク航空 (LAM) と Fastjet の両社は長期にわたる協力の実施に合意し、覚書を交換した。協力の内容は同区間の航行に関するコードシェアや、営業活動、貨物取扱、技術、保守など。

(3/22 ノティシアス)

納税を行った国民は全体の 17%

22 日、国税庁が発表したデータによると、現在モザンビークで経済活動に従事しているのは約 122 万人で、その内の約 17.7%が税金を納付している由。「納税者の日」式典に参加したメスキータ運輸通信相は、「納税の重要性は更に広く伝えられ、納税者は尊敬を集めるべきだ。自国民の責任に基づいた労働によって納付された国税こそが、国家の持続的発展の基礎である」と述べた。昨年多額の納税を行った企業の上位 3 社は、Vale Mozambique、ミレニアム・ビム銀行及びカオラバッサ水力発電所。

(3/23 オ・パイス)

4 社が新たに「Made in Mozambique」の認証を受ける

23 日、商工省は国内 4 社に対し、「モザンビークの誇り : Made in Mozambique」のラベルを製品に付けることを新たに認めた。ソト同省事務次官は「モザンビーク製品としての誇りを持って、健康的で質の高い商品を輸出してほしい。これら企業は国家経済の発展プロセスに参加しているのみならず、国内消費者に選好される商品を製造することにより、モザンビーク国民に対し、自国製品への誇りと、製品の質の高さへの探求の重要性を訴えかけている」と述べた。

(3/27 ノティシアス)

ノティシアス)